

単元名 箏の基本的な奏法を身に付けて表現を工夫しよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 箏曲と音楽の構造との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するための右手の使い方や押し手などの技能を身に付けることができる。
- (2) 曲想と音楽の構造との関わりを理解し、右手の使い方や押し手などの技能を使って、器楽表現を創意工夫することができる。
- (3) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

標準的な展開例

11260201_001

【教材名】 荒城の月 (P. 40～P. 41)

【準備等】 範唱音源, タブレット

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 右手の親指による奏法を確認する。</p> <p>★「さくらさくら」を演奏して右手の奏法を復習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平調子 ・爪の弾き方 ・姿勢 <p>○「練習曲1」「練習曲2」「さくらさくら」を演奏し、復習する。</p> <p>2 「押し手」の奏法を身に付ける。</p> <p>★左手の奏法を使って曲を表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○押し手による音程の変化を確認する。 ○押し手の奏法を理解し、楽譜中の強押しをする音や弦を確認する。 ○強押しの仕方を工夫する。 <p>3 「荒城の月」の演奏表現を工夫する。</p> <p>★「荒城の月」を演奏しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○曲想を感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・二部形式による4小節のまとまり ○音楽の構造を生かしながら表現を工夫する。 ○発表交流を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットでまなびリンクを活用して、右手の使い方を確認する。 ・平調子の音の並びを確認し、響きを聴き取らせる。 ・楽譜の読み方を確認させる。 ・調弦された音より高い音を出すための奏法であることを確認させる。 ・強押しと弱押しの音程の変化の違いを聴き取らせ、理解させる。 ・弦を押す加減や柱からの距離によって音程が変化することに気付かせ、正しい音程で演奏できるように練習させる。 【評】押し手の奏法を理解し、正しい音程で演奏する活動を通して、「技能」を評価する。 ・ピアノ演奏や歌唱表現から二部形式を理解させる。 ・小グループで箏を交互に演奏し、互いに聴き合いながら表現の工夫を交流させる。 ・曲のまとまりや演奏する速度の違いによる曲想の変化を味わう。 【評】楽曲の特徴に合わせて演奏表現を工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

二部形式である「荒城の月」を主教材にして、右手の親指の動きの確認や、「押し手」による左手の奏法を身に付けながら、我が国の音楽のよさを味わうことを目指す。

【共通事項】 音色・リズム・速度・旋律・形式